

第5分科会（中学校・今日的教育課題）記録

提言テーマ『AIを活用したセーフティーネット』に係る学校での取組

～小・中連携の視点からのマネジメント～

提言者〔みやき町立三根中学校 江島 裕章〕

司会者〔鳥栖市立鳥栖北小学校 長尾 真司〕

記録者〔みやき町立中原中学校 田中 克三〕

【研究協議題】

- ・子どもの学びを保障するために、保護者と地域、教師がどのように連携しているか。
- ・小学校における若手職員の意識向上。
- ・（中学校）多様化する課題を抱える生徒に関する情報共有の在り方。

1 質疑応答

なし

2 グループ協議報告

(1) Eグループより

- ・大規模校の連携はどうしても漠然としがちである。学校全体で開発的生徒指導を進め、生徒の中からリーダーを育て、校則改正など主体的な活動に取り組ませていくことが大切である。
- ・生徒指導主事や学年主任をいかに育てるかが重要であり、「リーダーシップを発揮しない」、「学年を把握していない」主任の場合、保護者対応等で苦勞することが多くなる。
- ・小規模校においては、児童生徒の特性や人間関係に関することについて小中の職員が互いに情報を共有し、把握するようにしている。また、コミュニティ・スクールの組織も協力的で役立てている。
- ・情報共有の方法としては、何かあればパソコン上の共有フォルダに入力し、定期的な部会・協議会で対応を協議している。
- ・問題事案等が発生した際の「初期対応メモ」を全職員が日常的に共有できるようにパソコンのデスクトップ上にアイコンを作成し、「いつ、誰が、どんなことをして、どのように対応したか」を入力する体制をとっている。その情報をもとに、管理職からどの職員がグリップして対応するか指示をするようにしている。

(2) Fグループより

- ・校長会の自主研究会において、特別支援教育に関する課題の見直しを図るために、各教師へのアンケートを実施したり、保護者、有識者、退職校長、現職担任等から話を聴く機会を設けたりしている。
- ・町がAIを活用して様々なリスクの可能性のある児童生徒を洗い出し、適切な対応や関係機関への連携を指示してくれるシステムを導入し、小から中へのデータの共有を行っている。
- ・校内でのスクリーニング会議で気になる生徒の日頃の様子等について情報交換を行う中で、ベテランの培ってきた観察眼や生徒への関わり方等について、初任者や若手職員への継承がなされている。
- ・生徒に関する情報共有の方法については、生徒指導部会を時間割の中に位置づけたり、月1回の全職員による生徒指導協議会を実施したりと学校の実情に合わせて工夫し、実施している。
- ・共有した情報がなかなか学年に下りていかないという課題があったため、職員の昼休みを分割して学年会の時間を確保したり、生徒の登校完了時刻と職員の勤務開始時刻をずらして打ち合わせの時間を確保したりするなどの校時の工夫を行っている学校の実践も参考にしたい。